

# 平成 29 年度 市川市立図書館評価報告書

平成 30 年 12 月

## 1. 趣旨

この報告書は、「図書館法」(昭和 25 年法律第 118 号) 第 7 条の 3、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(平成 24 年文部科学省告示第 172 号)、「市川市立図書館の設置及び管理に関する条例施行規則」(平成 21 年教育委員会規則第 6 号) 第 1 条の 2 及び「市川市中央図書館の管理に関する規則」(平成 6 年教育委員会規則第 9 号) 第 2 条に基づき、平成 29 年度の市川市立図書館の運営状況について評価・分析を行いサービス向上に資するものである。

## 2. 評価内容

「市川市立図書館運営基本計画」第 3 章 実施計画編(平成 27 年度～平成 29 年度)の具体的な施策に沿って行った取り組み内容と、目標値等の達成度に基づき、平成 29 年度の市川市立図書館の評価を行った。

## 3. 評価の基準について

市川市立図書館の「7つの施策の方向」の各項目について、取り組み内容と目標値の達成度を総合して A～D の 4 段階評価を行った。これに基づき、総合結果として「3つの柱」についての取り組みを 4 段階評価で表した。(3つの柱と 7つの施策については市川市立図書館運営基本計画 p.7 を参照)

実施内容	評価
十分達成できた。(目標どおり取り組みを実施し、目標を上回る成果があった。)	A
概ね達成できた。(目標どおり取り組みを実施し、一定の成果をあげた。)	B
やや不十分だった。(実施したが、十分な成果をあげることができなかった。)	C
不十分だった。(実施できていない。課題の整理、計画の見直しが必要である。)	D

## 4. 自己評価結果

平成 29 年度は、「市川市立図書館運営基本計画」の 3 つの柱のうち「子どもの成長をサポートする図書館」「地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館」の 2 つについては、目標を達成することができ A 評価となった。特に、子どもに対するサービスでは、乳幼児サービスの充実や中学校でのブックトークなど対象年齢を広げた新たな取り組みを行い、図書館利用の促進と読書環境の整備を進めることができた。「情報拠点として市民の学びを支える図書館」については、大学や関連施設と連携した出張登録会の実施や図書館サービスの PR に努めたが、利用登録者数が目標値に達しなかったため B 評価となった。

全体としては、7 つの施策の方向のうち 6 つが A 評価であったため、29 年度の目標はほぼ達成でき、一定の成果をあげたといえる。

## 5. 平成 29 年度市川市立図書館評価に対する外部有職者からの意見 …詳細は別紙 1

外部有識者 2 名(図書館情報学)から、平成 29 年度の市川市立図書館評価についてご意見をいただき、自己評価は概ね適切であると認められた。また、実施結果や評価方法に対していただいた課題やアドバイスについては、今後の図書館運営に活かしていく。

## 6. e-モニターによるリーディングプラン(平成 29 年度結果) …詳細は別紙 2

市川市立図書館運営基本計画の策定時に、市民モニターが重要と考える具体的施策について、e-モニターによるアンケートを行い、選ばれた施策を「e-モニターによるリーディングプラン」とした。これらの施策について、平成 29 年度の実施結果をまとめた。

# 平成 29 年度 「市川市立図書館運営基本計画」に基づく図書館評価結果

## 総合結果

### 1. 情報拠点として市民の学びを支える図書館

評 価	<input type="checkbox"/> A [十分達成できた]	<input checked="" type="checkbox"/> B [概ね達成できた]	<input type="checkbox"/> C [やや不十分だった]	<input type="checkbox"/> D [不十分だった]
-----	--------------------------------------	---	---------------------------------------	-------------------------------------

資料の受入冊数については目標値に届かなかったが、今後予定している IC タグによる全館的な資料管理が活かせるよう、中央図書館の保存機能を意識した資料の選定や適正な蔵書の維持に努めた。近隣商業施設との共催イベントや、関連施設、大学等様々な機関と連携を行い、双方の利用促進につなげることができた。引き続き、図書館がない北部地域の利便性の向上に努め、連携やイベントなどの機会を活かし、図書館の利用の拡大を進めていく。

### 2. 子どもの成長をサポートする図書館

評 価	<input checked="" type="checkbox"/> A [十分達成できた]	<input type="checkbox"/> B [概ね達成できた]	<input type="checkbox"/> C [やや不十分だった]	<input type="checkbox"/> D [不十分だった]
-----	---	--------------------------------------	---------------------------------------	-------------------------------------

関連施設との新規共催イベントの実施など、全館で児童に対するサービスを積極的に展開し、目標を達成した。乳幼児サービスやレファレンスサービスにおいては、ブックリストやパスファインダーを新たに作成し、図書館の活用を促した。今後は、本の魅力をより伝えられるように、出張おはなし会の内容充実や時流にあったイベントを実施し、子どもたちやヤングアダルト世代が図書館を利用する機会を増やしていく。

### 3. 地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

評 価	<input checked="" type="checkbox"/> A [十分達成できた]	<input type="checkbox"/> B [概ね達成できた]	<input type="checkbox"/> C [やや不十分だった]	<input type="checkbox"/> D [不十分だった]
-----	---	--------------------------------------	---------------------------------------	-------------------------------------

地域行政資料の収集や地図の電子化、地域情報データベースに新しいコンテンツを追加する等、様々な媒体によるサービスの充実に努め、全項目で目標を達成した。また、行政各部署が市川に関するイベントを行う際には、連携して図書館でも資料展示を行い、地域の情報や魅力を発信していくよう努めた。今後さらに、図書館が収集した情報が地域の課題解決につながるよう内容の充実を図るとともに、デジタルアーカイブシステム等を効果的に活用していく。

## 29 年度の取り組み内容

### 一つめの柱 情報拠点として市民の学びを支える図書館

#### 施策の方向 1-(1) 「様々な市民の学習要求に応えられる、蔵書の収集と維持」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①蔵書の維持と更新	・新規資料の受入れと劣化資料の買い替え	受入れ冊数 50,000冊	受入れ冊数 44,459冊	A
②利用に応じた様々な形態の資料の充実	・利用しやすい電子資料等の収集についての調査及び導入の検討	調査・検討 の実施	調査・検討 の実施	
	・障がい者向け資料の充実	受入れ点数 200点	受入れ点数 253点	
③効果的な蔵書管理	・行徳図書館の図書へのICタグの貼付と、全館的なICタグによる蔵書管理についての検討	ICタグの貼付 (30万冊)	ICタグの貼付 (40万冊)	
④資料保存のための書庫の確保	・中央図書館の書庫への可動式集密書架の計画的な設置	—	—	

#### 実績と評価

受入れ冊数は目標値の約9割であった。予算減に加え、図書館としての保存に耐えうるような資料の選定を心がけ文庫の購入を控えめにしたこと等により購入単価が上がり、冊数の増加に結びつかなかったことも一因と考えられる。障がい者向け資料は目標値を大きく上回る点数を受入れた。平成 30 年度からのデジタルアーカイブシステム導入に向けた予算措置を行った。IC タグの貼付・登録については予定通り中央図書館の開架部分を完了し、書庫資料への貼付に向けて保存資料の見直しを行った。

#### 課題

限られた予算を有効に利用するため、資料の収集については、的確な資料選定を行っていく必要がある。資料管理面では、IC 機能の活用に向け、全館での既存資料の見直しも含めた適切な蔵書管理を進めていくことが課題である。

#### 方向性

図書館全体で市民の学びを支えられるよう、引き続き各図書館の役割やニーズを意識した資料の選定を行うとともに、中央図書館が地域図書館の蔵書面での支援を行っていく。効果的に蔵書を管理するため、全館的な IC 化を計画的に進めていくほか、新しい媒体や方法による蔵書の構築についても検討していく。

### 施策の方向 1-(2)「図書館機能を活用した、生涯学習機会の提供と充実」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①レファレンスサービスの充実	・レファレンスツールおよび事例集の作成	継続発行・発展 19回	継続発行・発展 19回	A
	・市内外の図書館等との連携の強化 (レファレンス協同データベースへの事例提供)	実施(200点)	実施(210点)	
	・レファレンスツールとしてのデータベースの拡充等、市民の学習要求や調査研究に応える環境の整備	実施	実施	
②利用しやすい情報環境の整備	・利便性向上のための、ICT関連機器の更新及び導入計画の策定	機器導入計画 (中央)	機器導入準備 (中央)	
	・図書館ホームページのお知らせ機能やデータベース等の充実	拡大実施	実施	
③生涯学習機会の拡充	・図書館サービスのPRと、利用の促進	実施	実施	
	・イベントの開催や、地域イベントへの参加協力	実施	実施	

#### 実績と評価

国立国会図書館デジタル化資料送信サービス(閲覧用)を行徳図書館でも開始した。法令・判例関係の商用データベースとして「ウエストロージャパン」を新たに中央図書館に導入し、市川駅南口図書館では音楽配信サービス「ナクソミュージックライブラリー」を導入した。また、図書館情報システムの更新とICT機器導入に向けてワーキンググループを設置し、それぞれの課題について検討を開始した。そのほかに、市民の調査研究に役立つよう、パスファインダーを新規作成し、図書館ホームページで公開した。

出版社や他部署と連携して作家の講演会や原画展を開催し、通常の特集展示よりも奥行きのある本の世界を市民に提供することができた。また、地域のイベントに積極的に参加し、昨年同様、自動車図書館の展示や出張図書館の開催のほか、「鬼高さんしゃ祭」では毎年好評の「中央図書館バックヤードツアー」に加え、新たに「ブックコート体験」を実施し、図書館の仕事を経験することで図書館を理解してもらえるよう努めた。

#### 課題

平成30年度の図書館システム更新、31年度のICT機器導入に向けて、図書館の方向性や運用を再確認していく必要がある。図書館未利用者の来館につながるようなイベントの企画と広報活動は引き続きの課題である。

#### 方向性

ICT機器を導入し、効果的に図書館サービスを行っていくための具体的な方法を検討していく。図書館の利用を促進するため、イベントの開催や広報活動を引き続き積極的に行っていく。

### 施策の方向 1-(3)「関連機関とのネットワークの充実と、質の高いサービスの提供」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①関連機関との連携による、各地域における図書館サービスの充実	関連施設との連携による図書館サービスの拡充と利用の拡大 (図書館利用登録者数の拡大)	前年度比増 (前年度117,210人)	111,504人	B
②大学図書館との連携と利用の促進	市民の大学図書館利用のための紹介状の発行	実施 100件以上	実施 123件	
	市内大学図書館と市立図書館の各種行事等の相互PRと利用の促進	実施	実施	
	大学生の図書館実習、インターンシップ等の受入れ	実施	実施(6名)	
③ボランティアとの連携強化	図書館友の会と連携した行事等の実施とボランティア活動の支援	実施(4回)	実施(6回)	
	障がい者サービス関連のボランティアと連携した、障がい者向け資料の作製と収集	実施(20タイトル)	実施(28タイトル)	

#### 実績と評価

歴史博物館、現代産業科学館、文化振興財団等、様々な機関との連携を行い、関連施設と図書館双方の利用の拡大と図書館サービスの充実を図ることができた。また、大学図書館との連携では、市内大学から講師を招聘した講座の開催や図書館主催講演会で学生ボランティアの協力を得たほか、大学行事の図書館でのPR、紹介状の発行等、資料面だけではなく人的な面においてもネットワークの強化を行い、相互の利用を促進した。

#### 課題

図書館利用登録者については、「市民まつり」や市内大学で行った「出張登録会」等での呼びかけにより、新規登録者があったものの、図書館利用機能付住基カードの期限切れが進んだことで統計上の利用登録者が減少傾向にあり、全体として目標値の達成には至らなかった。今後も継続して関連施設と連携をとり、利用の拡大につながるよう、新たな方策を検討していく必要がある。

#### 方向性

大学や関連施設との連携により、図書館サービスの拡充と、図書館未設置地域である市北部をはじめとした地域住民の利便性の向上を目指す。また、ボランティアとの連携を強化し、より質の高い図書館サービスの提供に努めていく

## 二つめの柱 子どもの成長をサポートする図書館

### 施策の方向 2-(1)「発達に応じた豊かな読書のための環境整備」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①児童・青少年資料の充実	・子どもの発達段階に応じて豊かな読書体験ができるような資料の収集と更新	(受入れ冊数) 9,000冊	(受入れ冊数) 8,459冊	A
②行事の実施と情報の発信	・子どもの読書活動の推進のための行事の実施と情報の発信	継続実施及び拡大	継続実施及び拡大	
③レファレンス・読書相談の実施	・調べ物に役立つ資料の充実や探し方についての案内の実施	実施	実施	
	・大人に対しての子どもの本についての読書相談等の実施	実施	実施	
④ヤングアダルトサービスの実施	・中学・高校生のもつ課題解決(学習、生活、進路等)を支援するための資料の提供	実施	実施	
	・図書館と中学・高校生を結びつける行事の実施や刊行物の発行	実施	実施(10回)	

#### 実績と評価

資料の充実については、今年度は行事や展示用の本の買い替えを重点的に行った。展示では、文学ミュージアムとの連携で五味太郎氏の特集展示を行った。そのほかに、利用者投票型の企画展示や市内人形作家の人形展を実施した。イベントでは、親子で楽しめる「科学あそびの会 -じしゃくのふしぎ-」の開催や、出版社と共催の岡田淳原画展に併せて絵を描くワークショップなども行った。また、情報発信として、ブックリスト「わらべうたであそぼう」を発行し、わらべうたの会も並行して実施し、乳幼児サービスの充実を図った結果、乳幼児の親子での来館が増えた。

レファレンスに関しては、市川名産の梨についてのパスファインダーを作成し、郷土の調べ学習に役立つと、学校司書から好評を得た。また、児童書に関するレファレンス数が多い図書館として小学生向け新聞で紹介された。

ヤングアダルトサービスとしては、「ヤングアダルト通信」の発行や図書館員のおすすめ本「YA 図書館本 A-Z」の貸出し、市内中学・高校生が作成した本のポップを掲示するなど、図書館とつながるきっかけ作りに努めた。

#### 課題

児童書の単価が上昇している中、各年代に合った資料をいかにバランスよく購入していくかが課題である。ヤングアダルト世代が気軽に図書館に来られるような新しい企画を計画し、PRしていくことが必要である。

#### 方向性

様々な角度から魅力のある企画を実施するなど、子どもたちやヤングアダルト世代が本や図書館に興味を持ち、読書につながるような環境整備を進めていく。引き続きブックリストやパスファインダー等を作成し、年代にあった資料を紹介していく。

### 施策の方向 2-(2)「公共図書館と学校等との連携の強化」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①出張おはなし会・学級招待の実施	・「出張おはなし会」「学級招待」の対象学年の拡大とプログラムの充実	実施	実施	A
②調べ学習及び読書環境向上のためのサポート	・教育センターが所管する「学校図書館支援センター事業」への参加と協力	参加・協力	参加・協力 (資料依頼件数503件)	
	・学校図書館向け貸出資料の更新	実施	実施	
	・こども館等と連携した児童サービスの拡大	実施	実施	

#### 実績と評価

出張おはなし会については、対象学年を拡大し中学生へのサービスを開始した。また、今まで依頼のなかった幼稚園・小学校からの申込みが増加した。ブックトークを中心としたプログラムを組み、テーマに合ったリストを配布するなど、本に興味を持てるよう工夫をした。同時に、子ども用図書館利用券のPRをしたところ、後日、図書館へ来館する児童も見られた。学級招待については、前年度に続き校外学習として図書館を活用してもらい、また、中学生の職場体験も多数受け入れた。

教育センター主催の学校図書館研修会に図書館職員が講師として参加し、各学校の担当者との交流も行き好評であった。調べ学習につながる児童サービスとして、環境政策課と共催の「エコバッグをつくろう」や、現代産業科学館の企画展(発酵)に出向き、関連する読み聞かせを行うなど、関連機関との連携を積極的に行った。

#### 課題

各年代に対応した出張おはなし会の内容の充実が課題である。調べ学習については、多様化する要求に応えられる資料の収集、更新が必要である。

#### 方向性

中学生にも図書館に親しんでもらうため、引き続き中学校での出張おはなし会を行っていく。また、幼稚園・小学校だけでなく、地域で子ども達に読み聞かせをしている団体・地域コミュニティにも出張サービスを行っていく。調べ学習に対応していくため、資料の更新を進めるとともに、蔵書の十分な活用を図る。

## 三つめの柱 地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

### 施策の方向 3-(1)「市川市の歴史・文化の保存と継承」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①地域資料の収集と提供	・地域行政資料の収集と整理	(蔵書冊数) 54,000冊	(蔵書冊数) 56,569冊	A
②地域資料の保存	・著作権保護期間満了の資料の電子化	実施 2点以上	実施 2点	
③地域情報の積極的な発信	・図書館ホームページの地域資料に関するコンテンツの追加及び更新	実施	実施	

#### 実績と評価

地域行政資料は、寄贈を中心に、新刊書から古書まで積極的に収集した結果、蔵書冊数の目標値に達した。資料保存のため、著作権保護期間が満了した「市川市住宅詳細図」(1965)と、「市川市動態図鑑」(1966)を電子化し、館内のパソコンで公開した。

中央図書館では、ディスプレイケースを利用して書庫保存の貴重資料などを紹介している。歴史博物館の企画展にあわせて「利根川東岸弑覧(とねがわとうがんにいらん)」関連の資料を、文学ミュージアムの企画展にあわせて永井荷風原作映画「踊子」「夢の女」関連の資料を、それぞれ展示した。そのほかに、市内在住画家の原画展(絵葉書)を行ったところ、新聞等に掲載され、多数の問合せがあり、来館者にも好評であった。

地域情報の発信としては、レファレンスの多い市川の地名のデータベースを作成し、ホームページで公開した。

#### 課題

地域行政資料を永く保存していくための十分なスペースの確保と資料の劣化対策を計画的に進めることが課題となっている。収集保存している資料について、広く市民が利用できる環境を整備する必要がある。

#### 方向性

地域行政資料の積極的な収集と受入れに努め、引き続き資料の充実を図る。資料の劣化対策として、著作権保護期間満了の資料の電子化を進め、デジタルアーカイブシステムを導入し、地域行政資料を広く活用できるよう検討していく。地域情報データベースを随時更新しコンテンツの充実を図るとともに、ホームページ等を利用した情報発信を行っていく。

### 施策の方向 3-(2)「行政の情報拠点としての役割」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①行政情報の市民への提供	・行政各部署や関連団体と連携した行事や展示等の実施	内容充実	内容充実 (32回)	A
	・入手しにくい市の刊行物等の販売	実施	実施	
②行政各課への情報発信	・図書館で利用できるデータベース等、レファレンスツール情報の市の行政各課への発信	実施	実施	

#### 実績と評価

行政各部署や関連団体と連携した展示は、金井宇宙飛行士(稲荷木小学校卒)の宇宙ステーション滞在にあわせた「市川市宇宙交信関連事業」の一環として、特集展示を全館で実施したほか、「東京 2020 オリンピック・パラリンピックプロジェクト in 市川市」に関連して中央図書館で展示を行うなど、市を挙げての企画に参加した。その他の部署からも各事業に合わせた資料展示の依頼が来るなど、連携が定着したほか、現代産業科学館や理化学研究所と新たに連携をとることができた。また、図書館で市の刊行物等の販売や、市民向け冊子類の配布を行っていることも市民に認識されつつある。

庁内各課へ向けた情報発信としては、各部署での政策研究等に活かせるよう、調べ方案内やレファレンス事例を発信した。

#### 課題

図書館が行政の情報拠点として活発に利用されるために、市民生活に役立つ地域行政情報を分かりやすく発信していくことが課題である。行政各部署へ向けて、図書館サービスについての定期的なPRを行い、更に連携を強化していく必要がある。

#### 方向性

関連団体等と連携して、市川への理解と愛着が深まるような魅力的な展示やイベントを企画するほか、身近な行政情報を市民に積極的に提供していく。図書館の活用法を行政各部署にPRし、地域の課題解決やまちづくりに活かせるよう情報発信していく。

3つの柱に対する、図書館の自己評価、今後の課題等について、外部有識者(図書館情報学)2名から意見をいただいた。

### 1. 情報拠点として市民の学びを支える図書館

- ・評価は適正です。基本的な業務にしっかり取り組んでいます。「様々な市民の学習要求に応えられる、蔵書の収集と維持」については、受入冊数の減少が予算減と文庫の購入抑制によることは理解できるので、平均購入単価の数値を示すとより客観的な記述になると思います。また、ICタグの作業と合わせ、書庫資料の見直しを進め、公立図書館の保存機能を明確にしていくことはたいへん重要になると考えます。「図書館機能を活用した、生涯学習機会の提供と充実」については、電子的なサービスの充実が評価できます。レファレンス事例なども含め、図書館の活動だけでなく成果を記述できれば、実施事業の明確な位置づけができると思います。また、イベント等については、これまでと同じくたいへん充実しています。評価結果中に、実施の回数や参加者数などの総括的な数値があるとさらに分かりやすくなります。「関連機関とのネットワークの充実と、質の高いサービスの提供」については、図書館利用登録者が減少しているとのことですが、有効登録者はどうなっているのでしょうか。見かけの数値によらない検証が必要だと思います。なお、図書館未設置の北部地域については、例年課題に取り上げられていますが、市民の目に映る具体策をそろそろ講ずる必要があるように思います。
- ・受入冊数の目標値には届いていないが、中央館の保存機能を重視した選定を行うなど、予算減の状況下で相応の対応・工夫がなされた結果であるとむしろ肯定的に受けとめるべき側面もある。IC タグの貼付・登録も順調であることから、今後は、IC タグの特性を活かした取り組みが進展することを期待したい。各種のオンラインサービスやデータベースの導入などは情報源の拡充に向けて重要である。館内に留まらず、各種機関・地域など多方面との連携・協力関係を、図書館から出向くことを含めて、構築している点、とりわけ人的なネットワークにも注力している点は、学習機会を「提供」するだけでなく、利用者とともに「創出」という、今後における図書館のあり方から考えて高く評価できる。

### 2. 子どもの成長をサポートする図書館

- ・評価は適正です。全国的にも高いレベルにあると思います。「発達に応じた豊かな読書のための環境整備」については、受入冊数の減少が児童書の単価上昇によるのでしたら、前項と同様に、平均購入単価を示すとよいでしょう。イベント等も、きわめて充実しているので、前項と同様に、評価結果中に実施の回数や参加者数など、総括的な数値があるとよい記述になります。なお、ヤングアダルトサービスは例年課題となっていますが、図書館の活動と成果の関係を記述する必要があるように思います。「公共図書館と学校等との連携の強化」については、全国のモデルとなっているだけに、実施事業の維持だけでも相当の努力を重ねていることが伺えます。サービス対象を中学生に拡大した出張おはなし会など、今後も事業の拡大深化が期待されます。この項の全体において、目標値等と結果の実際が分かりにくいということがあります。数値で表現できるものは数値で示し、それが難しい場合には、「実施」だけとするのではなく、たとえば、「実施拡大」「実施継続」「実施縮小」とするなど、ある程度の状況を示すことができればよいと考えます。
- ・文学ミュージアムとの連携による展示など、新規イベントの開催をはじめ、ブックリストの発行、パスファインダーの作成など、子どもたちが図書館ひいては読書に親しみ、情報活用を学ぶ機会を非常に積極的に作りだしており、図書館として次世代を育む姿勢を強く持っていることは高く評価できる。とりわけ、中学生に対する出張おはなし会に象徴されるとおり、読書率が下がる中・高生へも多彩な働きかけを行なっている点は重要である。乳幼児から中・高生(ヤングアダルト)まで発達・成長段階をトータルにとらえていく取り組みは今後も継続・強化が望まれる。中・高生が作成したポップの掲示などから発展させて、子どもたち同士による読み聞かせ(年上が年下に)など、子どもたちが「参加」するタイプの企画を増やしていくことがさらなる段階に進むカギのひとつになるのではないだろうか。図書館ですべてをマネジメントするのではなく、人的なネットワークを活かして図書館以外の協力を得ていくこともポイントとなろう。

### 3. 地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

- ・評価は適正です。積極的な取り組みが伺えます。「市川市の歴史・文化の保存と継承」については、地域行政資料の収集と整理、著作権保護期間満了の資料の電子化が着実に実施されています。いずれもホームページ等からの電子的な情報発信が重要であり、デジタルアーカイブ化は早期に導入すべきものと思料します。まずは、各種企画展の展示資料について、デジタル展示会を試みては如何かと思います。「行政の情報拠点としての役割」については、市民や行政各部署から、地域行政情報の集積発信基地として、その有用性が認識される必要があります。目標値等と結果が「実施」だけでは評価の内実が見えないので、レファレンスサービスの提供件数、市職員などに対する利用調査、満足度調査などにより、成果に対する検証が可能となるような仕掛けが必要だと考えます。
- ・地域行政資料を積極的に収集した結果として、蔵書冊数の目標を達したことは喜ばしい。収集・保存に留まらず、地図・図鑑の電子化を進めたり、貴重資料を公開したりするなど、提供・活用においても積極的な取り組みが展開されていることも注目すべきである。さらに、地名データベースを作成・公開するなど、地域情報の作成・編集にも取り組んでおり、市立図書館の役割・責任を果たそうとする意欲が感じ取れる。また、行政の情報拠点として、とくに情報発信の強化を図っている点も今後に期待が持てる。レファレンス事例など、図書館ならではの情報が広まり、各部署・関連団体のみでなく、利用者にも広く図書館の有効性・必要性が認識されることを期待したい。

## 総評

・市川市の図書館は、高いサービスレベルにあるだけに、従来の事業を継続していただけても、相当の人的・物的資源を要します。図書館サービスに対する市民の高い要求に応えながら、情報環境や市民生活の変化に即した活動を展開していくことは容易ではなく、職員の皆様のご尽力には敬意を表したいと思います。

今後の自己評価にあたっては、事実と根拠に基づく検証可能なエビデンスが求められます。この点については、個々の事業の評価について、図書館からもう少し説明が必要となりますし、数値で表現できる事項は数値で表現していかなければなりません。評価の指標についても、これまでの活動実績中心から、成果に重点を移すことが非常に大切となります。

評価のための評価とならないように、また、市民の目線に耐えうる評価となるように、今後とも評価項目と評価方法の改善に取り組んでいただきたいと思います。

・自己評価は妥当であると考えられる。図書館内における「閉じた」サービス・活動を推進するに留まらず、図書館外の組織・団体・個人などと積極的に連携・協力しながら、旧来の取り組みを工夫したり、新しい取り組みを開始したりするなど、「開かれた」サービス・活動を、(場所としての)図書館以外の場でも積極的に展開しており、地域における情報拠点ひいては生活拠点としての図書館の姿を体現している点は、全国の手本となるとも言ってもよからう。今後は、利用者(潜在的利用者を含む)のニーズ把握・分析にいっそう務めつつ、限られた人員・予算をより有効に活かしたサービス・活動を期待したい。ポイントとなるのは、すでに注力されている図書館外とのネットワークを活かしながら、さらなる利用者―そこには一人でふらりと図書館を訪れる市民も含まれよう―を企画・運営にまで巻き込んでいくような「利用者協働」の方向であろう。市川市の取り組みが、公共図書館は本来、利用者とともにつくっていくものであるという原点を常に思い起こさせてくれるものとなっていくことを願う次第である。

## e-モニターによるリーディングプラン

市川市立図書館運営基本計画の策定時に、市民の声を広く集め本市図書館の運営に反映していくため、e-モニターによるアンケートを実施し、市民モニターが重要と考える施策について尋ねました。

7つの施策の方向の中で、「特に重要」という回答が多かった具体的施策を、図書館運営を俯瞰的に把握することができる主要施策として位置づけ、「e-モニターによるリーディングプラン」としました。

これら施策について、平成29年度の実施結果を報告します。

### 市民モニターが重要として選んだ具体的施策

#### 1 つめの柱 情報拠点として市民の学びを支える図書館

施策の方向 1-(1) 様々な市民の学習要求に応えられる、蔵書の収集と維持

○具体的施策 利用に応じた様々な形態の資料の充実

施策の方向 1-(2) 図書館機能を活用した、生涯学習機会の提供と充実

○具体的施策 利用しやすい情報環境の整備

施策の方向 1-(3) 関連機関とのネットワークの充実と、質の高いサービスの提供

○具体的施策 関連施設との連携による、各地域における図書館サービスの充実

#### 2 つめの柱 子どもの成長をサポートする図書館

施策の方向 2-(1) 発達に応じた豊かな読書のための環境整備

○具体的施策 行事の実施と情報の発信

施策の方向 2-(2) 公共図書館と学校等との連携の強化

○具体的施策 調べ学習及び読書環境向上のためのサポート

#### 3 つめの柱 地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

施策の方向 3-(1) 市川市の歴史・文化の保存と継承

○具体的施策 地域資料の収集と提供

施策の方向 3-(2) 行政の情報拠点としての役割

○具体的施策 行政情報の市民への提供

## <リーディングプラン 平成29年度結果>

市民モニターが重要として選んだ7つ具体的施策のうち、6つについては目標を達成することができました(取り組み内容については、p.1~4参照)。

施策の方向 1-(3)の「関連施設との連携による、各地域における図書館サービスの充実」については、利用拡大につながるよう、関連施設や大学等との連携し、図書館サービスのPRや出張登録会などを実施しましたが、目標値の利用者登録数の「前年度比増」には届きませんでした。今後も関連施設との連携を強化し、市内各地域で図書館サービスが利用されるよう努めていきます。

今回、目標が達成できた6つの具体的施策についても、拡大実施に努め、サービスの充実を図ってまいります。

